

資料③：平成 24 年度調査結果について

目次

1.調査実施の背景と調査概要	1
1-1.調査実施の背景.....	1
2.観光客アンケート調査	2
2-1.調査概要.....	2
2-2.調査結果.....	3
(1) 属性.....	3
(2) 沖縄旅行の実態.....	3
(3) 南城市での回遊状況.....	4
(4) デマンド交通について.....	5
(5) 南城市の交通等に関する自由意見.....	5
3.市民アンケート調査	6
1.調査概要.....	6
3-2.調査結果.....	7
(1) 属性.....	7
(2) 移動に不便を感じている方の外出状況.....	8
(3) 路線バスへの要望.....	9
(4) 巡回バスの利用状況・要望等.....	10
(5) デマンド交通の利用意向.....	10
(6) 南城市の公共交通に関する自由回答.....	11
4.医療機関ヒアリング	12
4-1.調査概要.....	12
4-2.調査結果.....	13
5.市内交通に関する課題とデマンド交通の役割	14
5-1.市内交通に関する課題.....	14
5-2.デマンド交通の役割.....	16

平成 25 年 11 月

南城市

1.調査実施の背景と調査概要

1-1.調査実施の背景

【南城市のビジョン】

- 南城市は、豊富な自然環境と歴史文化資産を活かした観光産業の振興に力を入れています。
- 「健康環境未来都市構想（ちゃーGANJYU CITY 構想）」を掲げ、地球温暖化対策として公共交通の利用促進を目指しています。
- 具体的には、南部東道路の完成に合わせた交通体系の見直しや、それに関連したパーク&ライド構想があります。

【観光における移動の問題】

- 市内の公共交通のサービス水準が不十分なこともあり、多くの観光客はレンタカーで来訪せざるを得ない状況となっています。
- グスク等の観光資源は幹線道路から外れたところに位置するものが多く、地理に不慣れな観光客が来訪しづらい状況となっています。

【市民生活における移動の問題】

- 路線バス網が那覇バスターミナルを中心に形成されていることもあり、旧4町村間の移動が不便な状況となっています。
- 路線バスが走っていても、与那原町境～馬天営業所以外のエリアの運行頻度は少なく、利便性が低くなっています。

【H24 の取組】

移動に関する問題解消に向けては、市内での新たな公共交通（＝デマンド交通）の導入が効果的であると考えられ、デマンド交通導入の検討に向けて、観光客及び市民（特に交通弱者）の移動実態や移動ニーズ等を把握するための調査を実施するとともに、調査結果を踏まえ、「デマンド運行計画（案）」を策定しました。

【実施した調査】

- 観光客アンケート
- 市民アンケート
- 医療機関ヒアリング

2.観光客アンケート調査

2-1.調査概要

- 南城市の主な観光施設等を訪れる観光客を対象に、調査員によるアンケート調査を実施しました。
- 属性の他、沖縄旅行の実態、南城市での回遊状況、デマンド交通の利用意向などについて把握しました。
- 調査の結果、304の票数を回収しました。

表-1.観光客アンケートの調査概要

項目	内容
調査対象	対象施設を訪れる観光客（グループの代表者1名） ※県内からの観光客のデマンド交通利用の可能性があるので対象に含む
調査箇所	市内の観光施設等（おきなわワールド文化王国・玉泉洞、斎場御嶽、カフェくるくま、ユインチホテル南城）
調査実施時期	平成24年12月21日（金）～22日（土）
調査方法	調査員が調査票にしたがって聞き取るヒアリング方式で実施

表-2.観光客アンケートの把握項目

目的	把握項目	備考
属性の把握	年齢・性別	
	居住地	
	運転免許の保有状況	
沖縄旅行の実態	沖縄への来訪目的	県外客のみ
	沖縄への訪問回数	//
	沖縄での滞在日数	//
	沖縄旅行の形態	//
	グループ類型	//
	沖縄旅行の情報収集の実態	//
南城市での回遊状況	南城市以外での訪問先	
	南城市内での立ち寄り先、回遊ルート、移動手段（予定も含む）	地図記入
	交通手段の選択理由	
公共交通の利用意向	乗合タクシーの利用意向	
	乗合タクシーで立ち寄ってみたい市内の観光地	
その他自由回答		

2-2.調査結果

(1)属性

- 調査対象者の9割が運転免許を保有しています
- グループ類型は、「夫婦・カップル」が38%と最も多く、次いで「家族」32%、「友人・知人」15%の順に多くなっています。

■持っている ■持っていない ■不明

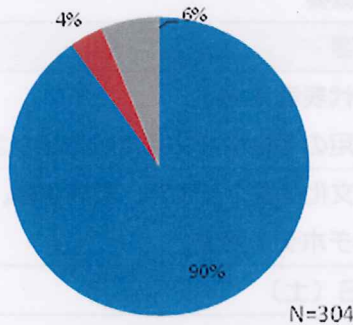


図-1.運転免許の保有状況

■個人 ■夫婦・カップル ■家族
■友人・知人 ■修学旅行 ■その他団体
■不明

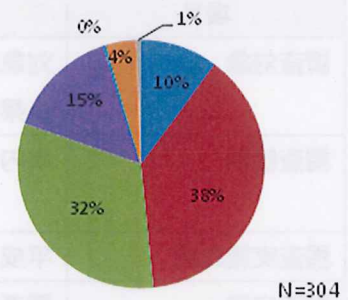


図-2.グループ類型

(2)沖縄旅行の実態

- 県外からの観光客の沖縄来訪回数は「5回以上」が34%と最も多く、来訪2回以上のリピータの占める割合が約8割を占めています。
- 沖縄旅行の目的は、「観光地めぐり」が77%と8割近くを占め、その他では「保養・休養」が29%、「沖縄料理を楽しむ」が16%と多くなっています。（複数回答）

■はじめて ■2回目 ■3回目 ■4回目 ■5回以上 ■不明

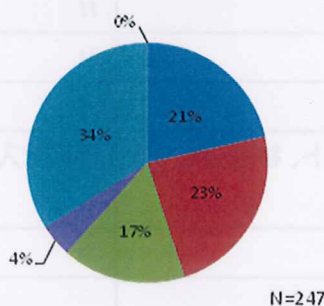


図-3.県外客の沖縄来訪回数

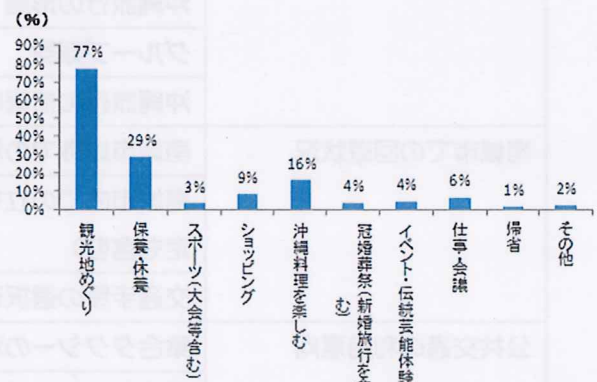


図-4.県外客の沖縄来訪目的(複数回答)

(3)南城市での回遊状況

- 県外客は「斎場御嶽」、「おきなわワールド文化王国・玉泉洞」、県内客は「ユインチホテル南城」、「斎場御嶽、「カフェ」への立ち寄り率が高くなっています。
- 南城市内での交通手段をみてみると、県外客は「レンタカー」が83%、県内客は「自家用車」が96%と大半が自動車利用となっています。
- なお、交通手段選択理由をみてみると、「移動が楽」が62%と最も多く、その他では「色々立ち寄り」が23%、「旅行のパックに含まれていた」が17%と多くなっています。

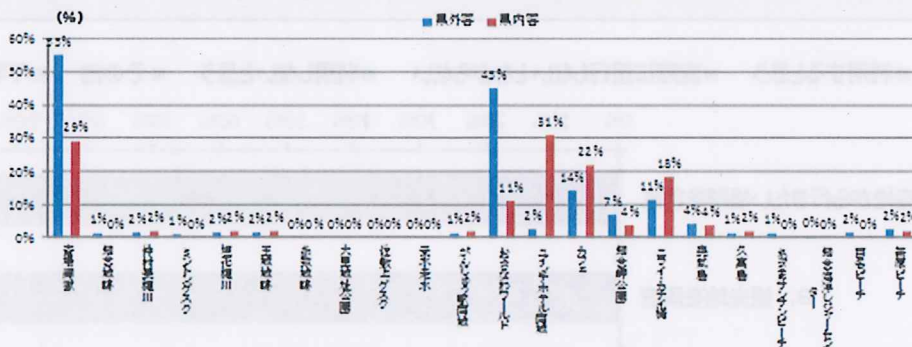


図-5. 県外客・県内客の観光施設の立ち寄り率



図-6. 県外客・県内客の南城市内での交通手段

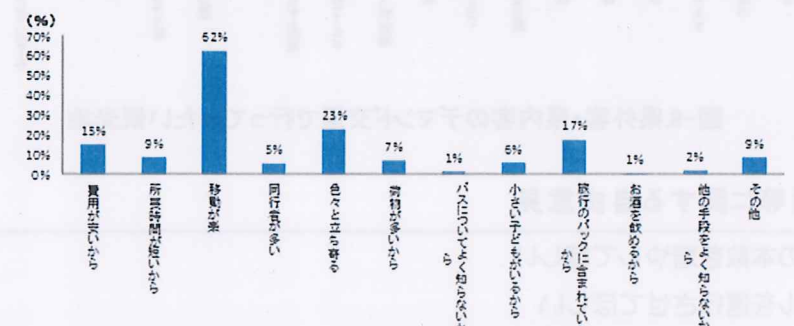


図-7. 交通手段の選択理由(複数回答)

(4) デマンド交通について

- デマンド交通の利用意向は、“観光地を周遊するタイプ”の利用意向が最も高く、38%が「利用すると思う」と回答しています。
- “観光地を収集するタイプ”のデマンド交通に対する平均支払意思額（利用するのに、いくらまでなら支払ってよいのかという金額）は、3時間コースで3,850円となっています。
- デマンド交通で行ってみたい場所をみると、県外客は「ニライ・カナイ橋」、「おきなわワールド文化王国・玉泉洞」、「玉城城跡」などが多く、県内客は「おきなわワールド文化王国・玉泉洞」、「ニライ・カナイ橋」、「奥武島」などが多くなっています。

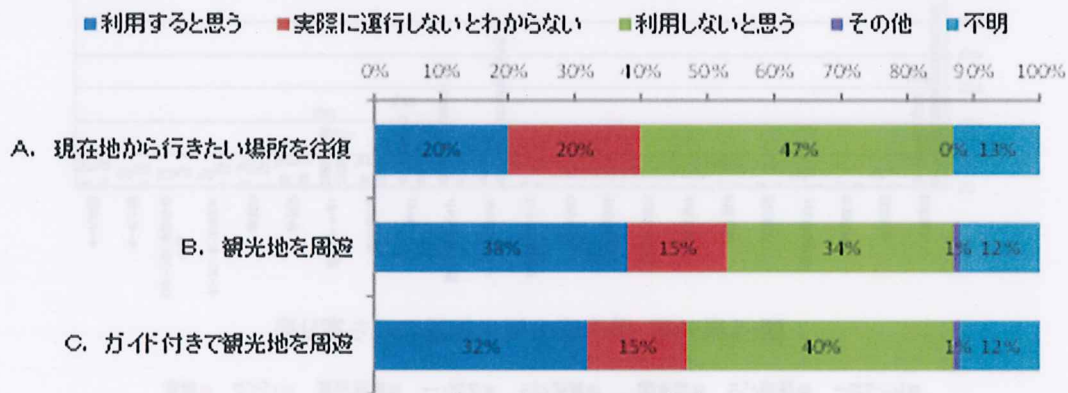


図-8. デマンド交通の利用意向

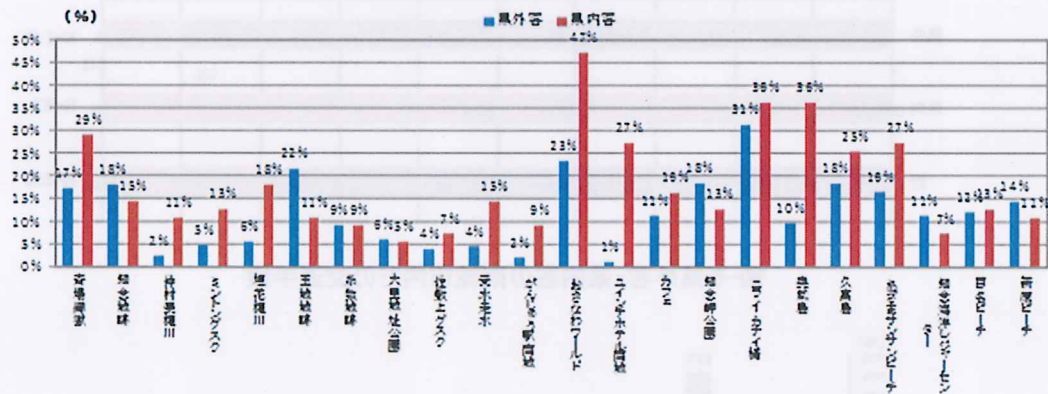


図-9. 県外客・県内客のデマンド交通で行ってみたい観光地

(5) 南城市の交通等に関する自由意見

- 路線バスの本数を増やしてほしい
- モノレールを運行させてほしい
- 高速道路を整備してほしい
- 旅行最終日にレンタカーを返却したあとに、デマンド交通で観光できるとよい。
- バスや、食文化に関する情報発信が少ない 等

3.市民アンケート調査

1.調査概要

- 主に、交通弱者の視点から問題点や、ニーズを把握するため、民生委員の協力を得て、アンケート調査を実施しました。
- 調査では、属性の他、移動実態、公共交通に対する要望、デマンド交通の利用意向などについて把握しました。
- 1,700の調査票を配布し、926の票数を回収しました（回収率54.5%）

表-3.市民アンケートの調査概要

項目	内容
調査対象	民生委員の訪問世帯
調査実施時期	平成24年12月
調査方法	民生委員による訪問配布、訪問回収

表-4.市民アンケートの把握項目

目的	把握項目	備考
属性の把握	年齢・性別	
	居住地	
	免許の所有状況	
	自動車等の所有状況	
	外出頻度	
移動実態の把握	平日の移動先と移動手段、外出頻度	1回の移動毎の移動手段を把握
	休日の移動先と移動手段、外出頻度	//
	移動に関する問題点	択一式
	移動に制約がない場合の外出先	
公共交通に対する要望の把握	バス路線の整備要望	
	バス停の整備要望	
	その他要望	
巡回バスの利用実態	認知度、利用の有無	
	利用時間帯、バス停	
乗合タクシーに対するニーズの把握	乗合タクシーで行ってみたい外出先、利用運賃	
その他自由回答		

3-2.調査結果

(1)属性

- 調査対象世帯の約6割に、同居する家族で日常生活の移動に不便を感じている方がいます。
- 日常生活の移動に不便を感じている方の性別は女性が3/4、年齢は70才以上3/4を占めており、女性の高齢者が多くなっています。
- 日常生活の移動に不便を感じている方の居住地は、市内4地区にほぼ均等に分散しており、市内全域に日常生活の移動に不便を感じている方がいる状況がうかがえます。

- 不便を感じている人がある
- 不便を感じている人はいない
- 不明

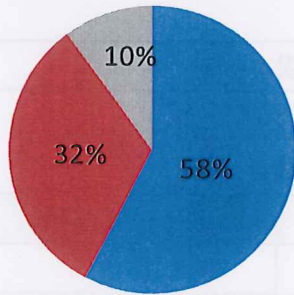


図-10.日常生活の移動に不便を感じている方の割合

- 男性
- 女性
- 不明

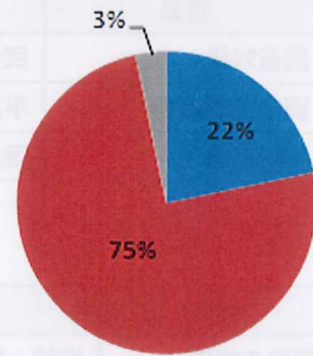


図-11.不便を感じている方の性別

- 10歳代
- 20歳代
- 30歳代
- 40歳代
- 50歳代
- 60歳代
- 70歳代以上
- 不明

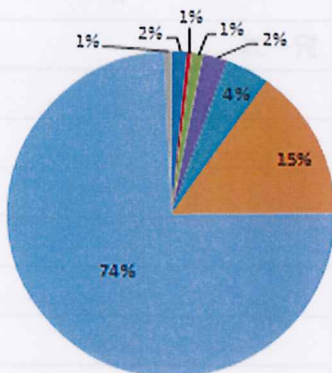


図-12.不便を感じている方の年齢

- 玉城
- 佐敷
- 大里
- 知念
- 不明

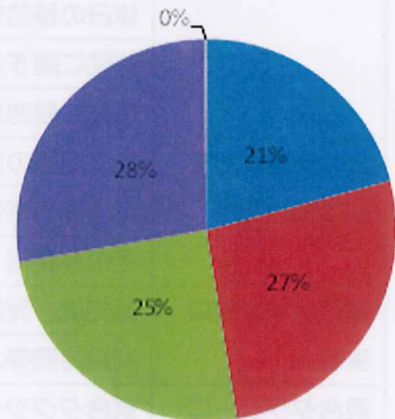


図-13.不便を感じている方の居住地

(2) 移動に不便を感じている方の外出状況

- 移動に不便を感じている方の普段の外出先は、「アトール」、「市役所」、「かねひで」、「平田内科医院」などスーパー、公共機関、医療機関が多くなっています。
- 外出頻度は、月に「1~5回」が75%と多く、ほとんどが平日での移動となっています。
- 自宅を出発する時間は9~10時台が多く、帰宅時間は12時台、15~16時台が多くなっています。
- 移動手段は「送迎」が37%、「路線バス」が34%と多く、その他では「タクシー」9%、「病院の送迎バス」9%などが多くなっています。

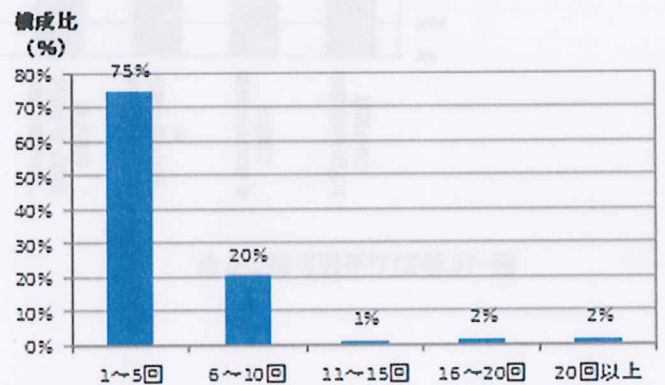
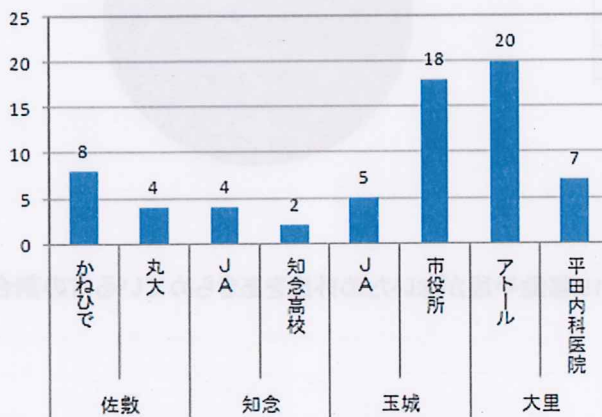


図-14. 移動に不便を感じている方の外出先

図-15. 移動に不便を感じている方の外出頻度

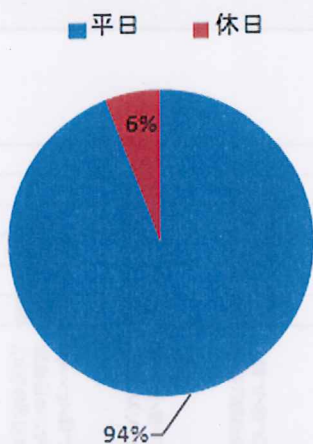


図-16. 移動に不便を感じている方の平日・休日別の外出割合

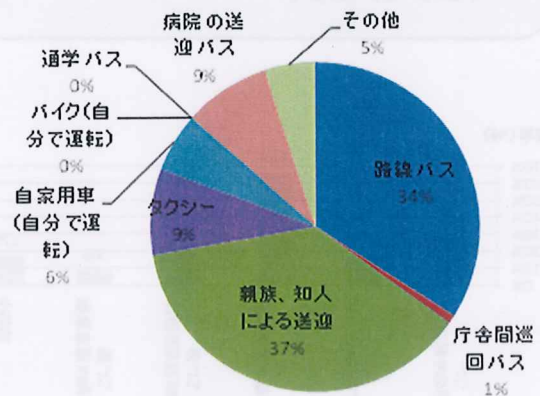


図-17. 不便を感じている方の移動手段

- 移動で不便を感じる点として「移動手段がなく、家族や知人の送迎が必要」が67%と最も多く、「目的地までのバスがない」、「最寄りバス停までが遠い」、「目的地までの乗り継ぎが不便」に対しても半数以上の方が問題指摘しています。（複数回答）
- 移動に不便を感じている方のうち、過半数の52%の方は、移動手段がないために外出をあきらめています。

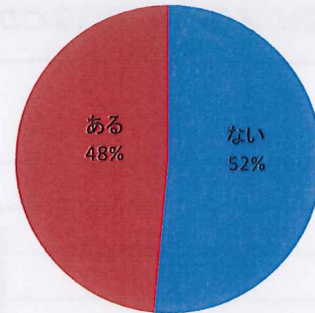
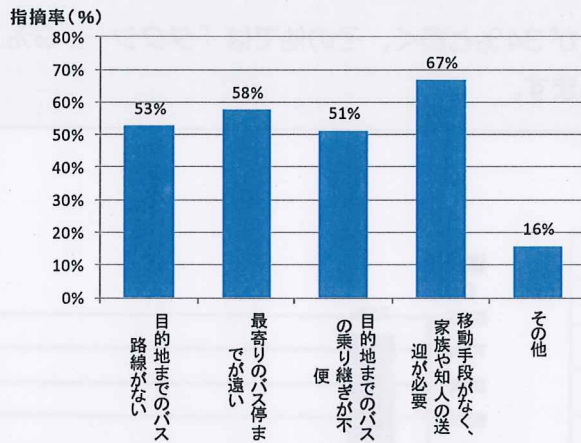


図-18.移動で不便を感じる点

図-19.移動手段がないため外出をあきらめている方の割合

(3)路線バスへの要望

- 66%の方が「運行本数を増やしてほしい」と回答しており、バス路線の新設やルートの見直し等 비해、強く望まれています。
- バス停に対しては、「屋根を設置してほしい」、「ベンチを設置してほしい」という要望が高くなっています。

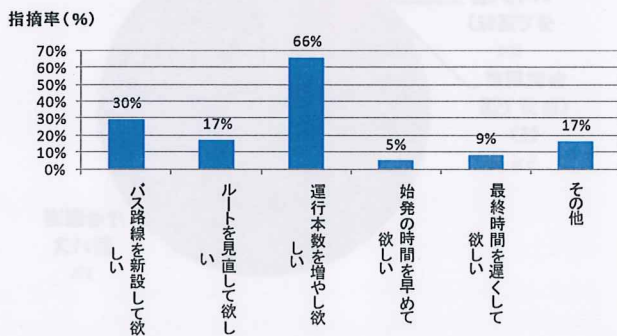


図-20.バス路線への要望

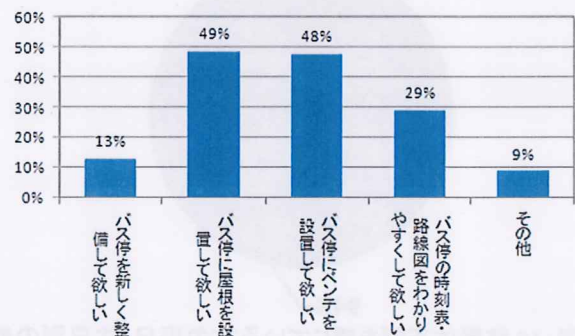


図-21.バス停への要望

(4)巡回バスの利用状況・要望等

- 半数の方が庁舎間巡回バスについて「知らない」と回答しており、まだ市民に広く認知されていない状況となっています。
- 知っている方の評価は、「とても良い」、「良い」と肯定的に回答している方が20%と「悪い」、「とても悪い」と否定的に回答している方の13%を上回っています。
- 巡回バスの利用率は14%で、利用バス停は「大里庁舎」が32人と非常に多く、その他では「市役所」、「馬天」の利用が多くなっています。

■ とても良い ■ 良い
■ 悪い ■ とても悪い
■ どちらでもない ■ よく知らない
■ 不明

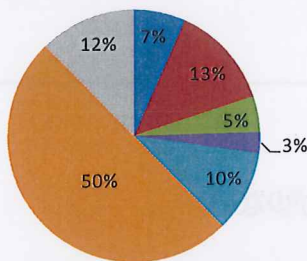


図-22.巡回バスの評価

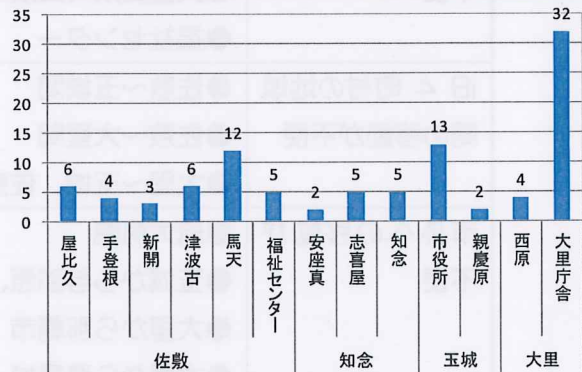


図-23.巡回バスでの利用バス停

(5)デマンド交通の利用意向

- 約半数の方がデマンド交通の利用意向があると回答しており、デマンド交通で行ってみたい場所として「南城市役所」、「イオンタウン南城」、「アトール」、「シュガーホール」などがあげられています。
- デマンド交通への支払意思額は平均422円であり、200円であれば9割の方が、300円であれば7割の方が、500円であれば4割の方が利用意向を示しています。

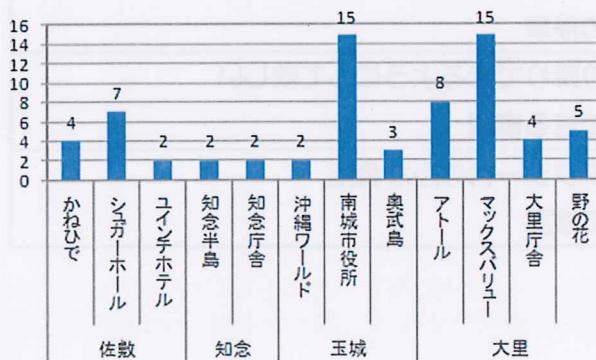


図-24.デマンド交通で外出したい訪問先

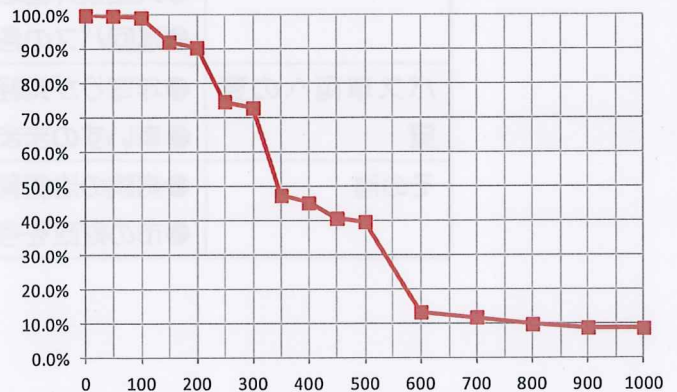


図-25.利用料金別のデマンド交通の利用意向

(6)南城市の公共交通に関する自由回答

表-5.南城市の公共交通に関する自由回答

項目	内容
市内での移動が不便	<ul style="list-style-type: none"> ●佐敷から南城市役所 ●大里支所（支所でのイベントに参加できていない） ●福祉センター
旧 4 町村の地域間の移動が不便	<ul style="list-style-type: none"> ●佐敷～玉城間 ●佐敷～大里間 ●大里～玉城、佐敷間
市外への移動が不便	<ul style="list-style-type: none"> ●琉大病院 ●玉城から与那原、糸満方面 ●大里从那覇市（バスの本数が少ない） ●大里から豊見城、糸満方面 ●高校生のこどもの那覇市内までの送迎
公共交通の便が悪い	<ul style="list-style-type: none"> ●つきしろ地区（巡回バスもなく、路線バスも本数が少ない） ●知念海野（巡回バスのバス停がない）
バスの増便	<ul style="list-style-type: none"> ●庁舎間巡回バス ●系統番号 38 番 ●本数が少ないので、歩いて買い物に出かけている。 ●土日のバスの便が少ない
バス路線の新設、経路見直し	<ul style="list-style-type: none"> ●知念～玉城～佐敷を結ぶ路線 ●大里から与那原、南風原、東風平（通院のため） ●南城市内をつなぐバスセンターの整備 ●大里嶺井団地と大里中心部、那覇市内を結ぶ路線 ●巡回バスの各字での停車
バス車両への要望	<ul style="list-style-type: none"> ●年寄りが気軽に乗り降りできるようにしてほしい ●車いすのまま乗車できる車両
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●病院の治療費よりタクシー代の方が負担 ●市の財政を考慮して検討

4.医療機関ヒアリング

4-1.調査概要

- デマンド交通の主な移動目的となる通院の実態等を把握するため、医療機関を対象としたヒアリング調査を実施しました。
- 調査は市内9つの医療機関を対象に実施しました。（うち、1つの医療機関についてはインフルエンザ流行で業務多忙のため調査未実施）

表-6.医療機関ヒアリングの調査概要

項目	内容
調査対象	南城市内の9つの医療機関（実際の調査箇所は8つ）
調査実施時期	平成25年2月
調査方法	調査員が医療機関を訪問し、聞き取り調査を実施

表-7.医療機関ヒアリングの把握項目

目的	把握項目	備考
通院の実態	患者に占める南城市民の割合	
	通院に関する患者の相談、苦情等	
乗合タクシー に対する意向	乗合タクシー導入による医療機関へのメリットの有無	
	乗合タクシーへの直接的な費用負担の可能性	
	乗合タクシーへの間接的な費用負担の可能性	
その他自由回答		

4-2.調査結果

- デマンド交通の導入により、送迎する家族の負担軽減や、送迎する家族がいない高齢者の受診機会の増加などの効果が期待されます。
- デマンド交通に対する直接的、または間接的な費用負担の可能性が把握されました。

表-8.医療機関ヒアリング調査結果

把握項目	概略
市内からの通院割合	●8の医療機関のうち、6つの医療機関は、患者の8割以上が南城市民となっており、市民の利用が多くなっている。
通院の実態、苦情等	●タクシーを呼んで欲しいという依頼がある。 ●公共交通機関の便が悪く、家族に送迎をお願いしたり、バスが少ない昼間の通院をあきらめたりするケースもみられる。
乗合タクシー導入のメリット	●自宅から病院に直接行けるようになり、患者や家族の負担が軽減される。 ●デイサービスの送迎はあるが、一般外来の送迎はないため便利なる。 ●送迎する家族がいない高齢の方は、受診機会が増えると思う。
乗合タクシーへの費用負担の可能性	●3つの医療機関は、利用数に応じた適切な負担であれば、直接的な費用負担の可能性があると回答している。 ●広告費など間接的な負担については、5つの医療機関が可能性があると回答している。
南城市の公共交通に関する意見	●バス路線や本数を増やして欲しい。 ●患者、高齢者のみでなく、乗合タクシーなどの公共交通は久高島に必要。港から集落まで坂道もあり、荷物があると移動が大変。 ●安座真港からのバスが少なく、バス停まで歩かないといけない状況であり、改善して欲しい。 ●船の最終便にあわせて、馬天まで路線バスを運行してほしい。
その他	●病院からバス停が遠いため、近くにあると助かる。 ●乗合タクシー導入により、既存のタクシーに影響があるのでは。

5.市内交通に関する課題とデマンド交通の役割

5-1.市内交通に関する課題

課題①：公共交通の運行経路の見直し

南城市内には3社の路線バスが運行されていますが、“市内の地区間が結ばれていない”や、“市外への移動が不便な地域がある”、“バス停の利用圏域から外れたエリアが広がっている”などの問題を抱えており、これらの問題解消に向けた運行経路の見直しが必要です。

課題②：公共交通の運行頻度の増加

系統番号37、39、50、191など概ね1時間に1本程度運行されている路線がある一方で、数時間間隔で運行されている路線もあるなど、運行頻度が極端少ない路線もあります。市民アンケートでは、2/3の方が本数の増加を要望し、また、医療機関アンケートでは、バスの運行本数が少ないため、昼間の通院をあきらめている状況も確認されており、市民のニーズにあった移動支援に向けた運行頻度の増加が必要です。

課題③：沿岸部を中心とした観光客の周遊支援

観光客アンケートにより、観光客の立ち寄り先、デマンド交通導入時に立ち寄って見たいところは、南部の沿岸部に集中、また、デマンド交通については、周遊型へのニーズが最も高くなっており、観光客のニーズにあった移動支援が求められます。

課題④：公共交通での南城市への来訪促進

観光客アンケートにより、県外客の8割強がレンタカー利用であるのに対し、路線バス・タクシーでの来訪は6%と非常に少なく、現状ではクルマを運転できない方は非常に来訪しにくい状況となっています。クルマを運転できない観光客の中には、南城市への来訪をあきらめている方も多いため、南城市への潜在的な観光客の誘致に向け、公共交通での南城市への来訪促進が必要となります。

課題⑤：市内全域に点在する交通弱者の移動手段の確保

日常生活の移動に不便を感じている方は、市内全域に点在しており、送迎してくれる方がいないといった問題や、移動手段がないために外出をあきらめているケースがあるなど、移動手段がないために思うように外出できていない状況であり、移動手段の確保が求められます。

課題⑥：交通弱者の広域的な移動支援

市民アンケートより、交通弱者の移動状況を整理すると、地区内のみでなく、市内の隣接地区や、隣接町村の病院への通院などが日常的に行われており、広域的な移動支援も必要です。

課題⑦：交通弱者の平日、日中の移動支援

市内に居住している交通弱者の移動時間は、平日、8～17 時台の日中で概ね収まっており、この時間帯を中心とした移動支援が効率的です。

5-2. デマンド交通の役割

【南城市における交通に関する課題】

- 課題①公共交通の運行経路の見直し
- 課題②公共交通の運行頻度の増加
- 課題③沿岸部を中心とした観光客の周遊支援
- 課題④公共交通での南城市への来訪促進
- 課題⑤市内全域に点在する交通弱者の移手段の確保
- 課題⑥交通弱者の広域的な移動支援
- 課題⑦交通弱者の平日・日中の移動支援

【デマンド交通の特徴】

- 決まったルートでの運行や、ルートが定まっていないドア to ドアでの運行など柔軟な運行が可能
- 予約がない場合は、運行を行わないなど需要に応じた効率的な運行が可能
- 小型のバスやタクシーなど路線バスより小型車両での運行されている例が多く、幅員の狭い道路の通行が可能でかつ経済的

役割①公共交通空白・不便地域における路線バスの補完

南城市内にはバス停から離れた地域や、路線バスの運行頻度が少ない地域もあり、運行ルート、運行時間に小回りが利くデマンド交通の特徴を活かした路線バスの補完が求められる。

役割②既存の路線バス等と一体となった公共交通ネットワークの形成

既存のバス路線網は、那覇方面へのアクセス利便性は高いが、南城市内の地区内を結ぶ路線がない、運行頻度が少ないなど利用者からみて不十分な点がある。那覇方面等の市外への移動は路線バス、南城市内からバスターミナルやバス停までの移動はデマンド交通といったような各種公共交通機関が一体となった公共交通ネットワークの形成が求められる。また、南城市においては、庁舎間巡回バスやがんじゅうバス等との整理・統合も検討する必要がある。

役割③持続可能な公共交通ネットワークの形成

南城市では公共交通への財政負担が年々増加している状況であり、デマンド交通の導入による持続可能な公共交通ネットワークの形成が求められる。

役割④南城市への観光需要の喚起

現在南城市に訪れている観光客の大半は、クルマ利用者であり、クルマを運転できない方にとって南城市内の回遊は市内での移動が不便なため訪れにくい状況となっている。このような状況のもと、デマンド交通は南城市への観光需要喚起に向けた回遊手段としての役割が求められる。

役割⑤南城市の活性化に向けた交通弱者の外出促進

南城市内全域にわたって、日常の移動に不便を感じている交通弱者の方が点在し、移手段がないために外出をあきらめている状況がみられる。このような状況のもと、デマンド交通は南城市の活性化に向けた交通弱者の外出促進のための移手段としての役割が求められる。

